

1. ベトナム OSS Leader Training Course

1. 1. 主催・共催

主 催：(財) 国際情報化協力センター
共 催：MOST (ベトナム科学技術省)

1. 2. 開催日

平成 16 年 8 月 2 日 (月) ～ 8 月 17 日 (火) 計 12 日間

1. 3. 開催地

ベトナム (ハノイ)

PT Center for Information Training & Technology Transfer

1. 4. 講師

青山学院大学大学院国際マネジメント研究科教授 井田 昌之 (当該予算)
青山学院大学大学院国際マネジメント研究科助教授 大島 正嗣
青山学院大学国際政治経済学部国際経済学科 高見 文寿

1. 5. 参加者・参加人数

27 名 (70%が省庁、30%が民間。参加者リストは末尾)

1. 6. 目的

OSS 分野においてリーダとなる教育者及び関係者に対し、実技を伴った研修を行なうことで、彼らが学校及び職場において OSS リーダになることを目指す。

1. 7. 研修報告

1) 概要報告

開会には、ベトナム側からMOSTのGeneral Director of International CooperationのThach Can氏, Nguyen Trung Quynh副局長, Vu Duy Phong PTセンター・所長、CICCからは兼谷専務理事、長沼部長、梅村、浅井が出席し、閉会にはベトナム側からMOSTのDr. Do Van Loc局長、Nguyen Trung Quynh副局長, Vu Duy Phong PTセンター・所長をゲストに迎えCICCシンガポール事務所中谷氏が出席した。

ベトナムでは 2004 年 3 月に OSS マスタープランが承認され、具体的な OSS 普及の取り組みを実施しているが、本 OSS リーダ研修では、各省庁に対して MOST の OSS 普及を実際に行なっているのを見て、またそれに対し日本が貢献できたことの意味は大きい。機材は CICC から供与した中古パソコン 40 台に、OSS である Fedra Core をインストールし研修を行なった。ベトナム側からは、ハノイ内の企業からも OSS の研修があれば、参加させて欲しいとの要望を多く受けているとの説明があった。次回はホーチミン市でも実施して欲しい旨、

要望を受けた。

2) 詳細報告

①研修内容

午前8時半から11時半までの午前3時間、午後1時半から4時半までの午後3時間、計6時間を毎日繰り返した。第一ステップでは、使用するFedora Core 2のインストールを全員でそれぞれ行なうことから始め、基本的な使い方とOSSに関する基本的な概念の学習からはじめ、3グループに分けてイントラネットを構築し、ネットワーク接続下での使い方を講習した。コンピュータ間でのFTPファイル転送、そして、Webサーバを各自のコンピュータで立ち上げて、ホームページを作成し、発信すること、メールサーバを立ちあげ、それによりグループ内のメールを交換するところまでをおこなった。クライアントとしてはMozillaを中心とした。第二ステップでは、再度Fedora Coreのインストールをしなおすことを全員に課し、それによってサーバとしてのインストールをおこなった。ネットワークプリンタの接続などこまかなことも行なった。第一ステップの終了から第二ステップにかけての移行は8月9日および10日の補佐2名が居る際におこない、大きな効果を発揮した。それを経て、次に3グループをひとつにまとめ、次にそのネットを外部インターネットに接続した。また、これによってインターネット接続に関する諸問題についても学習を行なった。

第二ステップではこれらに並行して、OSSの本質的な概念と意義についての学習も朝に1単位を毎日割っておこなった。IPRとWIPO、そしてWTO加盟までの道筋などについての討論も行なった。ちょうど本年10月よりBerne Conventionに第156番目の国として加盟するという新聞記事もあり、それも教材にした。なぜ、Illegal Copyがいけないのかという点では、まだまだ基盤としての理解が足りないことがわかった。

第三ステップでは、二つのプロジェクトワークを行い、それにもとづいて、最終日午後約2時間をあてて、各自の発表をおこなった。発表のための環境もすべて自分でインストールしたFedora Coreを使用した。プロジェクトワークにおけるファイルの共有にはWebDAVをインストールして使用し、最新の機構を利用した。第一のプロジェクトは、Mozilla ComposerのHELP ファイル、すなわち、基本的なホームページ作成ツールの使用法のマニュアルをベトナム語化すること、それを分業で行なうこと、第二のプロジェクトは、「ベトナムでのOSS展開を自分がこれからどのように行なうか？」あるいは「この研修で学んだこと」のどちらかを選択して、それについて5分間のスピーチをすることである。発表資料はHTMLあるいはSXIとし、3名以外はSXIを選んだ。

ベトナム側からは、このようなOSS研修をしてほしいという依頼がMOSTにたくさん来ているので、今後もぜひ行ないたいという希望表明がなされた。また、閉会後にはベトナム側の主催で、夕食会が開かれた。

②研修生の全般的な評価

研修生は、各省からとソフトウェア関連企業からの参加である。その中には、職務をかかえながら出席した人も10名ほどあり、それらの研修生については全体の習得は困難なものであったと推定できる。中核となりほぼ全出席は20名弱である。うち15名程度は優秀な人材であり、かつ一生懸命にやった。数名はその中でも日本においてもおそらく即戦力となる可能性をもっていると思われる。最終発表をしないものには、式において修了証を渡さない、という条件を徹底させたので、閉会式で修了証がわたされたのは、23名である。

基本的な問題は、英語理解能力である。簡単な英語をホワイトボードに書いても理解に時間がかかる研修生がいる。英語の文章の理解にもかなり時間がかかる研修生がいる。これらもあって、ベトナム側の要請もあり4回ほど宿題、しかもコピーをして渡したテキストを読んでまとめと感想を書く宿題、を出したが、やってきたものは各回数名にとどまった。しかし、英文を翻訳してベトナム語化するプロジェクト、あるいはすべての実作業をともなう課題はほとんどのものが真剣にとりくんだ。これらの点から判断すると個人の能力とやる気はあるが、英語能力の問題が大きいと判断している。

今後研修を行なうのであれば、英語能力に関する事前のスクリーニングを受講の条件とするか、あるいは現地のインストラクターを養成して、それに多くの部分をやらせること、あるいは、日本語の理解できるエンジニアの養成ということとからませて、そうした言語能力をもつ人材を対象にすることなど、なんらかの具体的な策を講じる必要がある。

③研修内容と研修期間

ほとんどの者がFedora CoreについてはLinuxをまったく知らなかった。したがって、当初は、いわゆるデスクトップとしての使い方の代替としてのイメージをもっているだろうと考えて研修プログラムを構成をした。この点は大きな成果があった。自分の手でインターネットへの接続ができ、情報の発信と蓄積ができる、グループ作業ができる、そうしたことへの導入は成功だったと思う。

この点には、日本からの補佐教員が行けたことが大きい。こまかな設定の指示、およびネットワークのこまかなことなどは彼らに負うところが大きい。特に第一週は講義の進行上の課題とネットワーク仕様の設定上の課題を並行して解決しなければならず、助教授クラスの人材を確保できたことが成功につながっている。後半は、研修生の年齢に近く、気軽に話のできる年齢の学生を補佐として日本から連れて行ったので、それが最終的な成果を上げる上でも大きな効果があった。また、現地の技術者が全期間居たのでそれらにも支えられている。

またこれは、使用するパソコンのスペック（500MHz、メモリ128MB）がかならずしもデスクトップとしてのOffice使用にたえるようなものではないこともあったので、意図的に強調した側面もあることを付記しておく。なお、これらのパソコンの周辺機器は優秀であり、また、多数のウィンドウを開いたままにしてもちゃんと動作するのは、あらためてOSとしての信頼性の高さに講師自身の驚きもあった。

ハードウェアとしては現在、一台400ドル程度の国民機をそろえようとしているとのことなので、次年度以降はかわるかもしれない。

次に期間の問題だが、内容との妥当性という意味で、また一定の結果を出すという意味では、正味12日間計72時間という長さは妥当なものであったと思う。

今後は、カリキュラムを整備し、現地講師あるいは日本からも複数の講師が順に行って研修ができるようにすることを考える必要がある。その場合でも、講義担当の講師と、技術担当者2名（日本側もしくはそれに相当するもの1名、および現地技術者1名）の計3名があたる必要がある。

1. 8. 写真



1. 9. カリキュラム

Date	Subject
2 Aug. 8:30-9:30	Opening Ceremony
2 to 6 Aug.	Step 1. Practical knowledge for OSS utilization
2 Aug. 9:30-11:30	1.1 What is Open Source for
13:30-16:30	1.2 Installing Linux on various platforms
3 Aug. 8:30-11:30	1.3 Introduction to Linux
-6 Aug. 13:30-16:30	1.4 Basic management of Linux operating system
	1.5 Making a local network (a server is provided by the teaching side)
	1.6 Bash commands for basic operations
	1.7 GNOME tools for desktop use : brief introduction of the bundled applications
	1.8 Project work to hands on : learning by doing
	1.9 Presentation on what we learned : learning by teaching
9 to 13 Aug.	Step 2. Understanding OSS as local leaders
8:30 - 11:30	2.1 History of the OSS movement and its development
13:30 - 16:30	2.2 OSS movement for software creativity
	2.3 Open Source Legality and License around GPL(General Public License)
	2.4 Bash advanced commands
	2.5 GNOME advanced tools
	2.6 Network management commands
	2.7 Sharing files and printer using Samba
	2.8 Mozilla
	2.9 Downloading software and updating systems
	2.10 Server design and implementation : Web server, DHCP server, Mail transport agent, name services, ip-filtering etc.
16 and 17 Aug.	Step 3. Wrap Up
8:30 - 11:30	3.1 Introduction to project based learning
13:30 - 15:30	3.2 How to lead and teach as an OSS leader
	3.3 Wrap up project
	3.4 Presentation on the achievement
	3.5 Evaluation and comments
17 Aug	Closing Ceremony
15:30 - 16:30	

平成 16 年度

「アジア OSS 研修」開催報告書

平成 17 年 3 月

財団法人国際情報化協力センター